

令和 3年 3月

# 平憲吉郎 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸  
副主査 花 島 律 子  
同 萩 野 浩

## 主論文

Evaluation of the pharynx and upper esophageal sphincter motility using high-resolution pharyngeal manometry for Parkinson's disease

(パーキンソン病に対する高解像度咽頭マノメトリーを用いた咽頭と上部食道括約筋運動の評価)

(著者：平憲吉郎、藤原和典、福原隆宏、小山哲史、森崎剛史、竹内裕美)

令和 3年 Clinical Neurology and Neurosurgery 201巻

DOI: 10.1016/j.clineuro.2020.106447

## 参考論文

1. The effect of Hangeshashinto on oral mucositis caused by induction chemotherapy in patients with head and neck cancer

(頭頸部癌患者に対する導入化学療法によって起こる口内炎への半夏瀉心湯の有効性)

(著者：平憲吉郎、藤原和典、福原隆宏、小山哲史、竹内裕美)

令和 2年 Yonago Acta Medica 63巻 183頁～187頁

2. Unseiin, a Kampo medicine, reduces the severity and manifestations of skin toxicities induced by Cetuximab: a case report

(セツキシマブによる皮膚障害に有効であった温清飲：症例報告)

(著者：平憲吉郎、藤原和典、福原隆宏、森崎剛史、小山哲史、堂西亮平、竹内裕美)

令和 2年 Yonago Acta Medica 63巻 379頁～384頁

## 審査結果の要旨

本研究はパーキンソン病の嚥下障害の病態を解明するため、定量的な測定法である高解像度咽頭マノメトリーを用いて、上咽頭から上部食道の嚥下圧の測定を行い、パーキンソン病の重症度分類であるHoehn-Yahr分類ごとに測定結果を比較したものである。その結果、stage Vでは最大上咽頭圧と最大中咽頭圧が低下しており、咽頭から食道に向けて嚥下物を押し込む力が低下していることが嚥下障害の原因の一つであることが示唆された。また、安静時の上部食道括約筋圧は重症度が高いほど低下していた。安静時の上部食道括約筋圧は輪状咽頭筋の機能を反映しており、重症度が高いほど輪状咽頭筋の収縮力が低下し、機能が低下している可能性が示唆された。本論文の内容は今後のパーキンソン病によって生じる嚥下障害の病態解明に寄与したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。